

特 集

漢方を上手に使う エビデンスに基づいた外科診療

漢方の専門医を中心に使われてきた漢方薬が、一般診療においても広く処方されるようになった。さらに外科診療の現場でも多くの漢方薬が幅広く用いられている。

外科においては特に、①術後管理ならびに合併症対策、②癌化学療法 of 副作用対策として、漢方の意義と役割が広く認められている。

漢方においては、東洋医学的見地から診断ならびに治療を行うのが常道とされてきた。その一方で西洋医学的方法論（メソドロジー）が導入され、生理学的・分子生物学的解析および臨床治験に基づいたエビデンスを蓄積すべく、様々な基礎研究と厳密なプロトコールによる臨床研究が進められている。

本特集では、外科医が「漢方を上手に使う」ため、臨床における実践（使い方）とエビデンスについて理解を深めていただくべく、各分野の指導的立場の先生方にご執筆いただいた。